

1. 木質バイオマス関連情報

■日本製鉄（株）（東京）、（株）IHI（東京）とともに、（公財）市村清新技術財団（東京）の第 56 回（令和 5 年度）市村賞において市村地球環境産業賞の功績賞を受賞。市村賞は、科学技術の進歩、産業の発展に貢献した技術開発者を表彰するもので、IHI からは 2 名、日本製鉄からは 1 名が受賞者に。受賞テーマは「カーボンニュートラルに資する高効率木質バイオマス専焼発電技術」。2015 年度に両社が、岩手県釜石市にある日本製鉄北日本製鉄所釜石地区の火力発電所（発電出力 149,000kW）において国内最大規模の木質バイオマス混焼実証試験を実施。4 系統あるミル・バーナの内 1 系統をバイオマス専焼化することにより、それまで数%にとどまっていた木質バイオマス利用上限を大幅に引き上げること（全体比率で 25%）に成功。本実証試験が木質バイオマス 100%専焼の商用運転につながり、発電分野のカーボンニュートラル化に貢献したことが評価された。北日本製鉄所釜石地区では 2010 年より地元間伐材を利用した木質バイオマス資源の活用を推進しており、両社は、2016 年にもバイオマス専焼に繋がる実証をしたことにより新エネ大賞経済産業大臣賞を共同受賞している【日本製鉄（株）：2024/03/11】

https://www.nipponsteel.com/news/20240311_100.html

■（株）CAST（熊本）、（株）レノバ（東京）が出資する徳島津田バイオマス発電所（徳島県徳島市）にて、「配管減肉モニタリングシステム」の実証実験を実施し、成功。同システムは CAST 独自の耐熱・フレキシブル・薄型の特徴を有する圧電センサーを用い、高温環境でも壊れず、工場配管やタンク等の厚み変化をモニタリングし、腐食などによる配管・タンクの減肉を検知するもの。検知したデータはネットワーク上に格納され、「いつでも・どこでも・誰でも」確認できるようになっている。実証実験では稼働時に表面温度が約 170～175℃となるボイラ給水配管の表面（保温材下）と、固体燃料による内部の摩耗減肉が懸念されるバイオマス燃料投入シュート部（ボイラ棟 5 階）に同システムのセンサーを設置。2023 年 11 月 16 日から 2024 年 2 月 22 日の 3 ヶ月超に及ぶ現場環境の実証データを取得す

るとともに、無線データ伝送とウェブブラウザ上で減肉状況のモニタリングを実施。1 日 2 回（12 時間周期）計測結果をリアルタイムにクラウドに格納し、オンラインで確認できる環境を構築した。同社はこのシステムにより、危険な工場内での検査の負担軽減及び事故防止や設備寿命伸長の実現が可能になるとしている【PR TIMES：2024/03/12】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000069778.html>

■農水省、2024 年 4 月より総額 2 兆 2,700 億円の全事業で環境負荷の低減を義務化へ。同省が政策を環境配慮型へと抜本的に変えたきっかけは 2021 年 5 月に発表した「みどりの食料システム戦略」。同戦略では 2030 年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者へ集中していくことを目指すとともに、補助金拡充、環境負荷低減メニューの充実、これらとセットでの「クロスコンプライアンス」要件の充実を図っている。クロスコンプライアンスとは、全ての補助事業等に対して最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を義務化するもの。令和 6～8 年度は試行実施期間となっているが、業種別に「環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート」が用意されており、補助金等を受給する際には記入、提出が必須となる。チェックシート解説書も業種別に用意されており、農水省のサイトより閲覧可【日経 ESG：2024/03/13、農水省】
<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00005/030700435/>
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/kurokon.html>

■エクシオグループ（株）（東京）と（株）あしかがエコパワー（栃木）、3 月 13 日より木質バイオマスを使用した「あしかがエコパワー発電所」の営業運転を開始。同発電所は栃木県足利市にあり、あしかがエコパワーが運営。周辺地域で発生する未利用材、一般木材及び剪定枝をチップ化し、燃料として約 85,000t/年使用する。出力規模は約 7,100kW（発電端出力）、想

定年間発電量は約 5,544 万 kWh（一般家庭 15,000 世帯の年間使用電力量に相当）【エクシオグループ（株）：2024/03/14】

<https://www.exeo.co.jp/news/6351.html>

■大阪ガス（株）（大阪）、昨年 12 月 14 日に営業運転開始した広畑バイオマス発電所（兵庫県姫路市）の竣工式を開催（3 月 13 日）。同発電所は大阪ガス 100%子会社の Daigas ガスアンドパワーソリューション（株）（大阪）が 90%、九州電力（株）（福岡）子会社の九電みらいエナジー（株）（福岡）が 10%出資する広畑バイオマス発電（株）（兵庫）が事業者。輸入木質チップと PKS の他、大阪ガス子会社の（株）グリーンパワーフュエル（大阪）が調達する国産木質チップも使用する。バイオマス専焼発電所としては国内最大規模となる出力 75MW、年間発電量は一般家庭約 16 万世帯分に相当する約 5 億 kWh の見込み。発電した電力は FIT に基づき売電する。Daigas グループにとってバイオマス専焼発電所の商業運転開始は 4 ケ所目であり、開発当初から主導的役割を担った発電所は初。九電みらいエナジーとしては 11 カ所目のバイオマス発電事業【電気新聞、PR TIMES：2024/03/14、大阪ガス（株）：2023/12/14、メガソーラービジネス：2023/12/15】

<https://www.denkishimbun.com/archives/358040>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000124.000003079.html>

https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2023/1769958_54087.html

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/03841/?ST=msb>

■（株）バイウィル（東京）、（株）日奈久バイオマス（熊本県八代市）との取り組みが、3 月 12 日に行われた第 59 回 J-クレジット制度認証委員会において J-クレジット創出プロジェクトとして登録されたと発表。バイウィルは J-クレジット認証委員会への各種申請・報告業務等を含むプロジェクト運営管理の代行業務等を行う事業者。今回登録された日奈久バイオマスの「バイオマス発電および排熱利用による CO₂削減活動プロジェクト」は、コジェネレーションシステムにより木質バイオマス発電だけでなく排熱も倉庫やビニールハウスの冷暖房に活用することで、省エネ化をおよび二酸化炭素排出量の削減を進めていることが認められた【@nifty ニュース：2024/03/14】

<https://news.nifty.com/article/economy/business/12365-2877737/>

■経産省、再生可能エネルギーの FIT 制度・FIP 制度における 2024 年度以降の買取価格等と 2024 年度の賦課金単価を設定し、公表。調達価格等算定委員会の「令和 6 年度以降の調達価格等に関する意見」を尊重し、設定。10,000kW 未満の一般木材等、未利用材、建設資材廃棄物、一般廃棄物・その他、メタン発酵バイオマスといったバイオマス発電については、2023 年度、2024 年度と同じ買取価格に。10,000kW 以上の一般木材等バイオマス発電やバイオマス液体燃料については 2024 年度の買取価格は入札により決定。上限価格は事前非公表。また経産省は、再生可能エネルギー普及のため電気料金に上乗せしている賦課金を 2024 年度は 1kWh 当たり 3.49 円にすると発表。1.4 円だった 2023 年度からは 2.09 円の引き上げ。400kWh/月を使う標準世帯の電気料金のうち、賦課金の月間負担額は 1,396 円となり、2023 年度に比べ 836 円の増加となる。高騰していた化石燃料価格の下落で、電力の市場価格が下がるため、再生エネ電力の販売価格も下がる見通し。政府はコストが高い再生エネによる電力を火力など既存電力よりも高く買い取る固定価格買い取り制度（FIT）を 2012 年度に開始。この費用を賄うため消費者が賦課金を負担することとなっており、賦課金の単価は電力会社の販売収入が下がるほど上がる仕組みとなっている【経産省、日本経済新聞：2024/03/19】

<https://www.meti.go.jp/press/2023/03/20240319003/20240319003.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQQUA191WJ0Z10C24A3000000/>

■吉野石膏（株）（東京）、せっこうボード製造時の 100%カーボンニュートラルを実現。温室効果ガスの排出削減に向けて、同社の草加工場（埼玉）と千葉第一工場（千葉）では、2023 年 10 月から再生可能エネルギー由来の電力を利用し、4,100t/年の CO₂ 排出量を削減。さらに 4 つの工場に導入した木質バイオマスボイラを活用し、製造に必要なプロセス蒸気と電気を生成。バイオマスボイラの併用により、製造時の 100%カーボンニュートラルを実現した【PR TIMES、吉野石膏（株）：2024/03/19】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000135356.html>
https://yoshino-gypsum.com/pdf/etc/20240319_carbonneutral.pdf

■兵庫県朝来市のバイオマス発電事業に関する貸付金の問題で、有識者委員会が兵庫県側のリスク見通しの甘さを指摘。「朝

来バイオマス発電所」は2016年運開。関西電力（株）（大阪）子会社の（株）関電エネルギーソリューション（大阪）が運営し、兵庫県森林組合連合会（兵庫、以下「県森連」）が県産木材をチップに加工、供給していた。しかし、新型コロナウイルス禍に伴い木材価格が高騰する「ウッドショック」で木材調達が困難になり、赤字が拡大。県森連は2022年11月に事業撤退を決め、同発電所は翌月に稼働停止。兵庫県は以前から県森連への貸付を行っており、それまでは年度末に返済されていたが、2022年度に貸し付けた9億円が回収困難となり、有識者委員会が貸付が妥当だったかなどを検証してきた。委員会の報告書は「大きな環境変化があった場合でも対応可能な計画となるよう県が指導すべきだった」と指摘。県が事業のリスクを十分に見積もっていなかったことや、事業譲渡などの「適切な意思決定が行えていなかった」ことも批判【朝日新聞：2024/03/20、神戸新聞NWXT：2023/10/19】

<https://www.asahi.com/articles/ASS3M65GRS3MPHB002.html>
<https://www.kobe-np.co.jp/news/society/202310/0016935824.shtml>

■ドイツ連邦環境庁（UBA）、2023年のドイツにおける総エネルギー消費（電力、熱、運輸）に占める再生可能エネルギーの割合が22%に達したと公表。再生可能エネルギー統計ワーキンググループ（AGEE-Stat）が分析。連邦環境庁は前年（20.8%）からの成長要因として、再生可能電力が前年比7%増加に対し総電力消費が5%減少したことから、総電力消費における再生可能エネルギーの割合が51.8%となったことを挙げている。再生可能熱は引き続きバイオマスが主流。再生可能熱の総生産量は前年比で僅かな増加に留まったが、温暖な気候と景気低迷により全体の熱消費が減少したことからその割合は18.8%に。運輸部門ではバイオ燃料の使用の増加（前年比2%増）に加え、電化が進み運輸部門における再生可能電力の消費量が大幅に増加。さらに再生可能エネルギー設備への投資は2023年に再び急増し、366億ユーロに（2022年は223億ユーロ）。また2023年は、再生可能エネルギーによりCO₂換算で2億5,000万tの排出量を削減【EIC ネット：2024/03/22】

<https://www.eic.or.jp/news/?act=view&serial=50411&oversea=1>

■長野県、同県塩尻市、民間が連携して森林資源の活用を目指す「信州F・パワープロジェクト」の中核企業で、民事再生中

の征矢野建材（株）（長野）の再生計画が確定（3月20日）。同プロジェクトは征矢野建材が塩尻市で手掛ける製材工場と同社等が出資したソヤノウッドパワー（株）（長野）によるバイオマス発電所（2020年稼働）が二本柱。征矢野建材は隣接する発電所へのチップ納入を担い、年間で一定量に達しない場合に補償金を支払う契約をしていた。木材価格高騰などでチップを確保できず、ソヤノ社に支払う補償金が膨らんだことで、2023年8月に民事再生法の適用を申請。同11月には再生計画案を地裁松本支部に提出。今年2月、再生計画案が債権者集会で可決され、同支部が認可決定、3月20日付で確定した。チップ供給の補償金契約は、綿半ホールディングス（株）（長野、以下「綿半HD」）が征矢野建材とスポンサー契約を結ぶ前提条件のもと、民事再生手続きの一環で昨年8月に解除。負債総額約67億円のうち弁済されるのは約28億円で、約200ある取引先や金融機関等の債権者の中には県の責任を問う厳しい声も。綿半HDは征矢野建材の資本金を全額減資し、1億円を増資して4月1日付で完全子会社化。30億円を貸し付け、4月下旬頃債権者への弁済を始める見通し。同社代表には綿半HDの有賀博専務が就任。6月1日付で征矢野建材の社名を「綿半建材」に変更する。征矢野建材は既に綿半HDの支援でチップ増産に着手しているが、プロジェクトの最大の課題である燃料チップ供給不足の解決策が見いだせておらず、軌道に乗るかは不透明【信濃毎日新聞：2024/03/24、2024/04/02、征矢野建材（株）：2024/04/02】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024032400062>
<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024040200181>
<https://www.soyano.com/news/watahangroup/>

■北海道知内町、町内にある知内高校の木質バイオマス導入を4月中旬にも指名通知。建築、機械、電気に分割。2月27日に発表した2024年度各会計予算案では、一般会計は前年度当初比25.4%増の56億7,050万円。知内高校に木質チップボイラ等を設置する事業費などが押し上げたかたち。5月の中旬に入札後、下旬の臨時町議会で契約承認を得られ次第着工する。冷房設置も合わせた工事で、2025年3月下旬までの完成を目指す【北海道建設新聞社：2024/03/25、北海道新聞：2024/02/27】

<https://e-kensin.net/news/162771.html>
<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/980473/>

■自民党の務台俊介氏（衆院比例北陸信越）、自身が事務局長を務める「木質バイオマス・竹資源活用議員連盟」の会合で、バイオマス利用は「課題が山積している」と指摘。会合は3月25日、党本部で開催。務台氏は「バイオマスは小規模分散型で進めるべき」とし、海外の事例を参考に必要性も強調。ヒアリングした民間団体からは「バイオマス発電は発電効率が悪い」として熱利用に軸足を移すよう求める意見が出て、議員からも同調する発言が続いた【信濃毎日新聞：2024/03/26】

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2024032600069>

■環境省、令和5年度「二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業」の第四回採択案件を決定。9件採択されたうち、相手国をベトナムとするプロジェクトが7件、チュニジアが2件。事業による年間の想定削減量は、CO₂換算で合計29万2,932tに。ベトナムでのプロジェクトのうち2件はイーレックス（株）（東京）が、同国のトゥエンクアン省とイエンバイ省でバイオマス発電事業を行う。両事業とも木質残渣を燃料とし、発電容量が50MW、8万t/年を超えるGHG削減量を見込む。この他、第一実業（株）（東京）が同国ドンナイ省ビエンホア市の食品工場へバイオマスコージェネレーションシステムを導入し、約2万5,000tの温室効果ガス削減を目指す【リム情報開発（株）：2024/03/26、環境省：2024/03/22】

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1768648.html>

https://www.env.go.jp/press/press_02949.html

■スズキ（株）（静岡）、バイオガス事業に本腰。4月1日付でバイオガス事業本部を新設。スズキグループとしてバイオガス関連事業を一元管理し、バイオガス生産に関する独自技術と事業化ノウハウの確立を目指す。柱となるのはこれまでインド現地で実証実験に取り組むなどしてきた、牛のふん尿由来のバイオガス生産【電気新聞：2024/03/27、スズキ（株）：2024/03/18】

<https://www.denkishimbun.com/archives/361419>

<https://www.suzuki.co.jp/release/d/2024/0318/>

■大東建託（株）（東京）、グループ会社の大東バイオエナジー（株）（東京）が2024年4月より朝来バイオマス発電所の営業運転を開始すると発表。3月には試運転を開始。同発電所は兵庫県森林組合連合会（兵庫）や（株）関電エネルギーソリューション（大阪）等が地元の間伐材を活用しようと事業を行っていたが、燃料となる木材の確保が難しくなったことから2022

年12月、発電を停止。2023年7月に大東建託が事業譲受し、同年9月に発電所の運営を行う新会社として大東バイオエナジーを設立し準備を進めてきた。今回の営業運転開始により約1年3ヵ月ぶりに再稼働することとなる。大東バイオエナジーは2023年10月16日より林業関係者などと連携して、燃料となる木材の調達を開始してきたが、枝・根株、製材端材などをチップ化するハンマー式破砕機などを新たに導入し、燃料となる木質チップの品質条件を緩和することで受け入れ種類を拡大。これにより、発電停止前同様に森林資源の地産地消モデルを継続しながら、林業の活性化と林地残材による災害対策に貢献する。発電出力は5,600kW、発電電力量は約4,000万kWh。発電した電力は西日本エリアの同社グループ事業所の247拠点に供給する予定で、これにより同社グループにおける再生可能エネルギーの国内導入率は50%に達する見込み。さらに大東建託は、3月27日に兵庫県朝来市と岩手県住田町へ5,000万円ずつ企業版ふるさと納税を実施したと発表。朝来市へは、バイオマス発電事業の継続のため、地元林業の活性化、および朝来市民の生活支援を通じた地域経済の活性化が不可欠であるとの考えから寄付を実施。寄付金は手入れ不足森林整備事業、ファーストウッドプレゼント事業、薪ストーブ普及事業等に活用される予定【大東建託（株）：2024/03/27、2023/10/10、NHK NEWSWEB：2024/03/28、PR TIMES：2024/03/27】

https://www.kentaku.co.jp/corporate/pr/info/2024/release_as_agobio_240327.html

https://www.kentaku.co.jp/corporate/pr/info/2023/release_as_agobio_231010.html

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/kobe/20240328/2020024853.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001082.000035668.html>

■（株）タクマ（兵庫）、子会社の（株）タクマエナジー（同）が官民連携による実質再エネ100%電力の地産地消事業を開始したと発表。タクマエナジーと藤沢市資源循環協同組合（神奈川県）が、茅ヶ崎バイオマス発電所の電力を協同組合が新設したプラスチック再生施設へ供給する契約を締結。発電所は神奈川県茅ヶ崎市にあり、タクマが2021年に（株）都実業（神奈川県）関連会社の利久（株）（同）へ納入した2MW級のバイオマス発電プラント。藤沢市等で発生した剪定枝由来の木質チップを利用して発電している。同発電所の電力および環境価値をタクマ

エネルギーが調達し、施設に供給することで、電力の地産地消による藤沢市の CO₂ 排出量削減を目指すとしている【(株) タクマ：2024/03/28】

<https://www.takuma.co.jp/news/2023/20240328.html>

■京都府南丹市と立命館大学（京都）およびバイオマスリサーチ（株）（北海道）が、地域活性化を目的としたバイオマス利用の研究・技術・システム開発等に関わる連携協定を締結（3月28日）。これにより、家畜ふん尿やその他の地域資源の使用に係る調査研究やバイオガス発電により発生する電気及び熱利用などの技術研究等に取り組む。地域に分散する多様な生物資源の利用による持続的な地域農業及び循環型社会の実現を目指す、連携・協力していく考え【立命館大学：2024/03/29】
<https://www.ritsumeai.ac.jp/file.jsp?id=616051&f=.pdf>

■おわせ SEA モデル協議会（三重）、三重県尾鷲市にある中部電力（株）（本社・愛知）尾鷲三田火力発電所跡地への大型製材工場誘致について、今夏にも計画概要発表へ。おわせ SEA モデル協議会は、尾鷲市、尾鷲商工会議所および中部電力が、尾鷲三田火力発電所跡地を「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」で、産業、観光、市民サービスを融合した拠点にすることを目指す団体。製材工場は、製材会社の「銘建工業（株）」（岡山）など3社が計画。約63万4,000㎡の跡地の約半分を占める。端材を燃料に木質バイオマス発電所を併設することになっており、尾鷲商工会議所が跡地で進めるバナメイエビの陸上養殖事業における熱源の見通しが立ち、具体化へ前進【中日新聞：2024/03/30、おわせ SEA モデル】
<https://www.chunichi.co.jp/article/876497>
<https://www.owase-seamodel.jp/>

■林野庁、令和6年民間団体に対する林野庁補助事業の補助金交付候補者（第1回公募分）について、結果を公表。詳細は下記サイトを参照【林野庁：2024年3月】
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/index.html>

■森林を大規模開発する再生可能エネルギー事業者から税を徴収する全国初の宮城県条例が4月1日、施行。正式名称は「再生可能エネルギー地域共生促進税」。使い道を特定しない法定外普通税。国が再エネ推進の旗を振る中、乱開発や景観悪化などで地元住民の反発を招く事例も目立つようになってお

り、税負担を課すことで再エネ開発を森林以外へ誘導し、環境保全と再エネ促進の両立を図る。課税対象は0.5ha超の森林を開発する太陽光と風力、バイオマスの発電施設で、税率は営業利益の20%程度に相当。バイオマス発電設備は税率1,050円/kW。太陽光発電設備は税率620円/kW、風力発電設備は税率2,470円/kWだが、FIT認定設備については税抜調達価格に応じて区分することとなっている。県は条例施行後5年以内に検証して内容を見直すとしている。県は昨年11月29日に再エネ発電事業者向け説明会を開催しており、当日の説明を録画した動画や質疑応答は下記サイトより閲覧可【北国新聞：2024/04/01、宮城県：2024年】

<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1358981>

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/saisei/kyousei_tax.html

■国立大学法人東京農工大学（東京）が、「持続可能な航空燃料（SAF）に関する国際環境認証及び新規原料開発に関するオープンプラットフォーム（SAF-OP）」を開設。バイオマスや廃棄物等から製造される持続可能な航空燃料（SAF）は、CO₂の排出量を大幅に削減できることから高い期待が寄せられているが、安定的な供給に向けては原料の確保や技術開発等多くの課題が存在する。2050年を見据えた長期ロードマップに加え、2030年のSAF供給目標を達成するために具体的な供給体制を確立していくことが必要であるため、SAF-OPを設立。SAF原料（ポンガミア等）の安定供給に資する技術開発やSAFの事業化体制の構築などに向けた産学官連携の取組を開始する【国立大学法人東京農工大学：2024/04/01】

https://www.tuat.ac.jp/NEWS/research/20240401_01.html

■東京電力ホールディングス（株）（東京）の送配電子会社である東電パワーグリッド（株）（東京）が、東京エリアのバイオマス発電事業者3社に対し、3月30日に発電を一時的に停止する「出力制御」の実施を誤って指示したと発表（4月1日）。指示に使うオンラインシステムの不備が原因。3社は制御を実施したが、実際はその必要はなかった。同社は出力制御を日本版コネクト&マネジメントシステムで行うこととしており、2024年度からの運用開始に向けて準備を進めていた。同システムは発電者に対し常時出力制御上限値を送信しているが、今回はその準備中に本来の上限値よりも低い出力制御値を誤って送信出力したことにより発生したものであるとしている。現在詳細について調査しており、暫定対策として、出力制御上限値を固

定し、誤送信のないようシステムの再設定も実施。電力販売が減った3社には損失分の補填などの対応を検討する。3社の設備容量は計約1万kW【(一社)共同通信社、東京電力パワーグリッド(株)：2024/04/01】

<https://nordot.app/1147467465425191210?c=302675738515047521>

<https://www.tepco.co.jp/pg/company/press-information/press/2024/pdf/240401j0701.pdf>

■東京ガス(株)(東京)、(株)レノバ(東京)と、国内の再生可能エネルギー電源開発や電力の調達・販売、バイオマス事業の運営などでの協業拡大を目的とした資本業務提携契約を締結(4月1日)。加えて、レノバが実施する第三者割当増資による約178億円の新株式発行の引き受けを決定。これにより、東京ガスは約13%の議決権割合を有する第二順位の株主となる。業務提携契約の概要によると、国内バイオマス発電事業における協業としては、「バイオマス発電所運営におけるオペレーションや火災などの災害対策に関する知見共有と情報交換の実施」「両社での燃料融通や共同での燃料のスポット調達が円滑にできる枠組みの構築」を行うとしている【東京ガス(株)：2024/04/01】

<https://www.tokyo-gas.co.jp/news/press/20240401-04.html>

■東京証券取引所、4月8日からカーボン・クレジット市場のJクレジット取引で再生可能エネルギー(電力)を2種類に細分化。生物資源(バイオマス)のうち木材をエネルギー源とする発電によりCO₂を削減し創出されるJクレジットを取引する「再エネ(電力・木質バイオマス)」の区分を新たに設定。このほかの太陽光発電や水力発電、風力発電などを由来とするJクレジットは、従来どおり「再エネ(電力)」区分のまま。東証の3月8日までの調べによると、認証を受けたJクレジットのCO₂・1tあたりの再エネ電力量(平均値)は、再エネ電力由来の2.015MWhに対し、再エネ木質が1.037MWh。1tのJクレジットで調達できる電力量は、再エネ電力の方が再エネ木質よりも0.978MWh多い。3月8日時点では再エネ電力由来で認証されたJクレジットは136件。このうち木質バイオマスによって認証を受けた7件の売買区分が4月8日から再エネ木質に変更される。7件のうち5件のプロジェクト実施社が新東海製紙(株)(静岡)、2件が愛媛製紙(株)(愛媛)【リム情報開発(株)：2024/04/02】

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/rre/1769286.html>

■中部電力(株)(愛知)と、(株)グリーンアース(千葉)が、植物資源に関する資源循環事業の推進に向けて資本提携。グリーンアースは千葉県内を中心に植物資源材リサイクル事業(剪定枝・伐採木の破碎・選別・チップ販売)等を展開しており、2023年からはNEDOが実施する、新たな燃料ポテンシャル(早生樹等)を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業にも採択され、将来の脱炭素エネルギーの安定供給に資する研究開発にも取り組んでいる。中部電力グループが有するエネルギー分野の知見や幅広いネットワークと、グリーンアースの植物資源の資源循環に関する豊富な実績・知見を相互に組み合わせることで、エネルギー・資源の最適循環の実現に向けた取り組みを推進していく考え。また今後、中部電力はグリーンアース発行済み株式の35%を取得することとしており、これによりグリーンアースが中部電力の関係会社となる予定【中部電力(株)】2024/04/05】

https://www.chuden.co.jp/publicity/press/1213575_3273.html

■木質バイオマス発電所を核とした複合レジャー施設「高梁グリーンパーク」が岡山市高梁市に完成。3月29日、現地で記念式典を開催。利用低迷で2012年末に休館になっていた健康増進施設「朝霧温泉ゆ・ら・ら」を、岡山市の情報通信会社(株)エヌディエスが約1億1,000万円で土地、建物共取得。2022年10月から約1億5,000万円をかけて改修した。木質バイオマス発電所の発電プラントは新たに建設。間伐材などを高梁、新見市内で集め、両市内の自社工場でチップに加工し約3万t/年使う。一般家庭4,300戸分に相当する1,580万kWhを発電、全量を電力会社に売る計画。発電所は3月31日に稼働開始【読売新聞：2024/04/06、山陽新聞デジタル：2024/03/28、2024/03/31】

<https://www.yomiuri.co.jp/local/okayama/news/20240406-OYTNT50008/>

<https://www.sanyonews.jp/article/1533098>

<https://www.sanyonews.jp/article/1534281>

■(株)三井住友フィナンシャルグループ(東京、以下「SMBC」、石炭との混焼も含め、バイオマス発電所の新規・拡張案件をサステナビリティ評価対象に。SMBCグループは、環境・社会に影響を与える可能性が高い「石炭火力発電」、「バイオマス発電」、「パーム油農園開発」、「森林伐採」等9つのセクター・事業に対し支援を行うかどうかの方針をそれぞれ明確化。バイオマス

発電に関しては、原生林由来でなく、地域住民等の人権侵害を行っていないことが確認できる持続可能な燃焼材が使用されることを確認の上支援を行うとしている。また、バイオマス発電事業に資金が向かう案件については、GHG 排出の緩和策などの環境社会配慮がなされているか注視し、支援を検討する際には環境社会リスク評価を実施するとしている。3メガバンクでバイオマス発電事業を環境社会リスク評価の対象に加えたのは SMBC が初【(一社) 環境金融研究機構：2024/04/08、(株) 三井住友フィナンシャルグループ】

<https://rief-jp.org/ct1/144426>

https://www.smfg.co.jp/sustainability/group_sustainability/

■フィンランド南西部オルキオト島の地下約450mにある高レベル放射性廃棄物(核のごみ)最終処分場「オンカロ」(洞窟)、2月下旬に内部を報道陣に公開。原子炉から取り出された使用済み核燃料は放射線の影響がなくなるまで10万年、ここに眠ることになる。国際原子力機関(IAEA)によると、世界で初めて原子力による発電が始まった1954年から2016年末までの間、地球上で生じた使用済み核燃料は39万t。環境保護団体グリーンピースの報告書では、世界で毎年約1万2,000tのペースで増えていると指摘。これだけ核のごみが増えているにもかかわらず最終的な処分に至った国はなく、原発が「トイレなきマンション」とも言われるゆえんとなっている。フィンランド国内で稼働する原子炉5基はオルキオトと南部ロビーサの2カ所にあり、オルキオトには欧州最大級の3号機を含め3基が集中する。フィンランド政府は1983年、地下深くの安定した地層の中に埋設する処分方法「地層処分」の方針を決定。国内100以上の調査候補地を4カ所にしぼり、2001年に議会は原発が立地するオルキオトを処分場建設地とすることを承認。フィンランド国内5基の原子炉から生じる使用済み核燃料は全てオンカロで最終処分することになる。政府は最大6,500tの搬入を承認しており、満杯となるのは2120年代の見込み。世界初の「核のごみ」最終処分場は、早ければ年内に操業開始の可能性があるが、周辺の町の住民からは不安の声も【47NEWS：2024/04/09、goo ニュース：2024/04/26】

<https://www.47news.jp/10767113.html>

https://news.goo.ne.jp/article/47news_reporters/world/47news_reporters-20240411201439.html

■東ソー(株)南陽事業所が、自社発電所の森林バイオマス燃料の利用量に応じて資金を拠出し、「東ソー苗木基金」を創設。山口県森林組合連合会と連携し、県内の森林の再造林に必要な苗木を森林所有者へ供給することで森林資源の循環利用を促進する。4月10日には山口県庁にて、東ソー南陽事業所、山口県森連、山口県の三者で協定調印式を開催。東ソーは南陽事業所の老朽化した自家用石炭火力発電所の一つを廃止し、新たにバイオマスを主燃料とした発電所を新設することを決定。発電出力は74MW。木質系燃料に加え建設廃材やRPF等の廃棄物系燃料の利用を想定しており、将来的にはバイオマス専焼としてCO₂排出量約50万t/年削減を目指している。発電所は2022年7月着工、2026年4月発電開始予定【山口新聞：2024/04/10、山口県：2024/04/03、東ソー(株)：2022/07/27】

<https://yama.minato-yamaguchi.co.jp/e-yama/articles/72413>

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/251917.html>

<https://www.tosoh.co.jp/news/release/2022/20220727.html>

■JX 石油開発(株)(東京)と住友商事(株)(東京)、米国ルイジアナ州コールドウエル郡ポートオブコロンビアで開発中のルイジアナ・グリーン・フューエルズ SAF/BECCS 事業に、JX 石油開発が参画するためのコンソーシアム契約を締結したことを発表(4月9日)。プロジェクトでは間伐材など木質バイオマスをガス化・合成し、持続可能な航空燃(SAF)と再生可能ナフサ(RN)の製造を行う。2029年には約12万kl/年の製造設備の商業稼働を開始する予定。また同事業では、製材所で生じた廃材等を燃料としてバイオマス発電(発電出力86MW)を行い、操業のための電力として活用。同時に SAF/RN 製造・発電過程において生じる CO₂を回収し地下に圧入する CCS も実施することで、本事業全体での CO₂の大幅なネガティブエミッションを達成する計画【航空新聞社：2024/04/10、JX 石油開発(株)：2024/04/09】

<https://www.jwing.net/news/77229>

[https://www.nex.jx-](https://www.nex.jx-group.co.jp/newsrelease/upload_files/NOEX20240409JP.pdf)

[group.co.jp/newsrelease/upload_files/NOEX20240409JP.pdf](https://www.nex.jx-group.co.jp/newsrelease/upload_files/NOEX20240409JP.pdf)

■北海道帯広市内の酪農、畜産農家19戸が出資する「(株)川西バイオマス」、4月からバイオガスプラント3基の試験稼働開始。4月11日に市内の野原牧場で竣工式を開催。乳牛1600頭分/日、年間4.3万t/年の家畜ふん尿を処理できる。5月下旬以降に本格稼働し、肥料になる副産物「消化液」の販売や売

電は今夏から開始する予定【北海道新聞、十勝毎日新聞：2024/04/11】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/999335/>
<https://kachimai.jp/article/index.php?no=606916>

■木材の製品製造販売を行う吉田産業（株）グループ（宮崎）、循環型社会づくりの一環として「第 21 回 植樹祭」を 4 月 13 日に開催。従業員やその家族など約 130 人が参加し、造成した社内の敷地にソメイヨシノの苗約 100 本を植えた。同社では工場に出る端材を燃料とする「バイオマス発電所」を老朽化のため 2023 年 11 月から新しく着工。植樹祭に合わせた餅まきには地域の人も参加し、棟上げを祝った。延べ床面積約 2,500 m²（全 6 棟）で、発電所の最大出力は 3,000kW。2025 年春完成予定で 6 月に運転開始を目指す【日南テレビ：2024/04/13】
<https://www.nichinan.tv/2024/04/13/yoshida21/>

■（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会（東京）、令和 5 年度「地域内エコシステム」リビングラボ事業により実施した各種事業の成果報告書をウェブサイトで公開。「木質バイオマス燃料の需給動向調査」、「木質バイオマス燃料の安定供給システム構築に関する調査」等の成果報告書を下記サイトより閲覧可【（一社）日本木質バイオマスエネルギー協会：2024/04/15】
<https://jwba.or.jp/topics/update/topics20240415/>

■（株）タクマ（兵庫）、自社の CO₂有効活用技術を用いた（株）サラでの活用事例（トリジェネレーションによる野菜栽培）が、（一財）高度技術社会推進協会（東京、以下「TEPIA」）の運営する TEPIA 先端技術館に展示されたと発表。サラはタクマがバイオマス発電プラントと CO₂供給設備（名称：t-CarVe・ティーカーブ[®]）を納入した岡山県笠岡市にある 13ha の半閉鎖型グリーンハウスでトマト、パブリカ、レタスの栽培・出荷を行っている。設備では主に PKS 等の輸入木材や周辺地域の一般木材をバイオマス燃料として発電。その電力の一部をグリーンハウスに供給するとともに、回収した熱を野菜栽培に必要な暖房・除湿冷房用の熱源として利用するほか、燃焼ガスから精製した CO₂を野菜栽培に活用。電気・熱・CO₂のトリジェネレーションを実現しており、この取り組みが「廃棄物を活かすテクノロジー」として展示されることとなった。展示期間は 2025 年度末まで。TEPIA 先端技術館は入場無料、完全予約制【（株）タクマ：2024/04/16】

<https://www.takuma.co.jp/news/2024/20240416.html>

■住友林業（株）（東京）、3 月 28 日に開催した取締役会で資源環境事業本部に「業務監理室」新設を決定。木質バイオマス発電や森林ファンドなどの事業拡大への対応や、再発防止策を担当する【J-FIC ニュース：2024/04/16】

<https://www.j-fic.com/%e4%bd%8f%e5%8f%8b%e6%9e%97%e6%a5%ad%e3%81%8c%e3%80%8c%e6%a5%ad%e5%8b%99%e7%9b%a3%e7%90%86%e5%ae%a4%e3%80%8d%e6%96%b0%e8%a8%ad%e3%80%81%e6%96%b0%e8%a6%8f%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%82%84%e5%86%8d%e7%99%ba/>

■山形県西川町、2030 年までに町全体の半数強に相当する約 1,000 世帯分の電気（町推計で約 820 万 kWh/年）を木質バイオマス発電と小水力発電でまかなう計画。バイオマス発電所は町内にある寒河江ダムにたまる流木をチップに加工して発電に用いることも視野に入れており、約 5 億円を投じて町が整備。同町は 2050 年までに CO₂排出量を実質ゼロにすることを目指しており、その一環で取り組む【日本経済新聞：2024/04/18】
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1570X0V10C24A400000/>

■（株）津軽バイオマスエナジー（青森、以下「津軽 BE」）、新たに青森県平川市内に山林約 155ha を取得。津軽 BE では 2017 年に平川市内の山林 110ha を取得以降、策定した森林経営計画に基づいて伐採及び林地残材の燃料化、地拵え、植林のサイクルを確立している。今回新たに取得したことで、社有林面積は津軽 BE で 265ha、TRE ホールディングス（株）（東京）グループ全体では 865ha（東京ドーム約 185 個分）となった【TRE ホールディングス（株）：2024/04/18】
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9247/tdnet/2422733/00.pdf>

■群馬県上野村、2024 年度一般会計当初予算は前年度比 15.9%増の 40 億 8,300 万円に。農林水産業費を約 1.8 倍に増額。村の広葉樹をバイオマス発電の燃料チップとして活用するシステムを探る事業が 2 年目を迎え、チップを作る「チップパー機」の購入費や村森林組合への委託料などを盛り込んだ【上毛新聞：2024/04/19】
<https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/450519>

2. ペレット関連情報

■（一社）ボランティア東北ファミリア（宮城）が、東日本大震災で宮城県南三陸町にペレットストーブを寄付した（株）新越ワークス（新潟）を通じ、能登半島地震被災地の新潟に寄付。ボランティア東北ファミリアは、東日本大震災で津波被害に見舞われた南三陸町に向けて、東京からのボランティアバスの運行を今も続けている。能登半島地震に伴う新潟市西区を中心とした被災地への義援金に充ててほしいと南三陸町ブランドワカメの加工品を販売し、売り上げから約 15 万円を、東日本大震災からちょうど 13 年となった 3 月 11 日に新越ワークスに託した。新越ワークス社長は、この善意を能登半島地震で大きな被害のあった新潟市西区の坂井輪中学校で、地域住民や子どもたちの居場所となる「カフェ」の開設を始めたボランティア団体「災害応援にゃんこ隊」の活動に寄付する考え【新潟・県央情報交差点：2024/03/11】

https://www.kenoh.com/2024/03/11_minamisanriku.html

■栃木県矢板市市長、シャープ栃木工場跡地の一角に計画されているバイオマス発電事業に反対表明。3 月 14 日の定例記者会見で「場所と時期について大きな問題を抱えている。事業に反対の立場から市内製材事業者に対して納得のいく説明を求めていく」と表明。同事業は、業績不振から 2018 年にテレビ製造を終了し、一部を残し売却を検討していたシャープの栃木工場跡地を製材業の（株）トーセン（栃木）が昨年 12 月に取得。同社は取得した跡地を「デカーレ矢板」と名付け、脱炭素と地方創生の拠点に育てる構想を発表した。約 3 万 8,000 ㎡の第 1 工場を 30 億円超かけて改修。年 12 万㎡の原木を製材する予定で、同工場では製材過程で出のおがくずからペレットも生産する。稼働予定は 2025 年春。バイオマス発電のプラントも建設し、生産したペレットでの自家発電も計画。旧工場などが残る約 10 万㎡の土地は建物を含めて賃貸する計画。バイオマス発電に関しては、エクシオグループ（株）（東京）と事業の検討をしている段階【下野新聞：2024/03/15、日本経済新聞：2023/12/25、朝日新聞：2023/12/26】

[https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-](https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/868727#google_vignette)

[/868727#google_vignette](https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/868727#google_vignette)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC256SJ0V21C23A2000000/>

<https://www.asahi.com/articles/ASRDT6W8GRDTUUHB005.html>

■大成建設（株）（東京）、北海道平取町で栽培した燃料用作物「ジャイアントミスカンサス」（以下 GM）を、メーカーと共同で開発した新しい技術でペレット加工し、ボイラに使用して熱供給を行う実証試験を開始。GM（和名：オギススキ）は、オギとススキが自然に交雑して生まれた日本在来の植物。1 年間で 3～4m 程度まで生長し、長期に渡って安定した収穫が期待できる等のメリットがあるが、バイオマス燃料として供給する場合には細かく裁断したチップ状態では灯油・重油などの液体燃料に比べ運搬や保管が難しく、コスト面での優位性が確保できないことが明らかに。そこで同社は収穫時にチップへ一次加工後、新たに開発したペレット加工する技術を用いて元の容積の 1/10 程度まで減容化を実現。GM を効率的に運搬・保管することが可能となり、平取町において GM を活用してトマト栽培ビニールハウスなど農業施設への熱供給実証に着手した。今後同社はペレット化した GM 以外にも現地で入手・加工できるバイオマス燃料を用いた熱供給実証を通じ、平取町・びらとり農業協同組合と連携して様々な施設への熱供給を目指す【大成建設（株）：2024/03/15】

https://www.taisei.co.jp/about_us/wn/2024/240315_9945.html

■長野県伊那市、2024 年度、同市高遠町にある上伊那森林組合の木質ペレット生産工場に小型の木質バイオマス発電設備を設置へ。生産過程での環境負荷を減らすのが狙いで 3 月 15 日の市議会全員協議会で市が概要を説明した。伊那市は 2 月に 2024 年度当初予算案を発表しており、それによると小型木質バイオマス発電設備導入に 2 億 3,560 万円を計上している。再生可能エネルギーの利用や CO₂ 排出削減の施策を積極的に進める考え【中日新聞：2024/03/16、2024/02/16】

<https://www.chunichi.co.jp/article/869346>

<https://www.chunichi.co.jp/article/854362>

■中国電力（株）（広島）グループでプラント工事業の中電プラント（株）（広島）が開発した「木質バイオマス再造粒設備」が好評。同設備は、木質ペレットを直接燃焼させて発電する施設において木質ペレットを受入れ、貯蔵、搬送する際に木質ペレットが粉化して飛散したものを回収、再造粒してペレットに成形する設備。近年、石炭と木質ペレットを混焼する火力発電所が増加。木質ペレットは複数のベルトコンベヤを経てボイラマ

で運ばれるが、コンベヤから別のコンベヤへ移し替える際、ペレットが碎けて粉じんが発生する。同社は設備導入のメリットとして、「木粉（かさ比重 0.3～0.4 程度）をペレット（かさ比重 0.6～0.7）にすることで減容化につながる」ことと、「ペレットにすることで、搬送機器での粉じん飛散が抑制でき、燃料として利用ができる」ことを挙げており、特許も出願中。設備は中国電力の石炭火力発電所で稼働しており、他の電力会社やボイラメーカーからも高い関心が寄せられているという【電気新聞：2024/03/19、中電プラント（株）：2024/02/06】

<https://www.denkishimbun.com/archives/359242>

[https://www.chuden-](https://www.chuden-plant.co.jp/assets/img/topics/data/topix20240206.pdf)

[plant.co.jp/assets/img/topics/data/topix20240206.pdf](https://www.chuden-plant.co.jp/assets/img/topics/data/topix20240206.pdf)

■経産省、3月21日に第20回産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会電力安全小委員会電気設備自然災害等対策ワーキンググループ（以下、WG）を開催。昨年9月に火災が生じた米子バイオマス発電所（鳥取）の米子バイオマス発電合同会社（同）と今年1月に火災が生じた武豊火力発電所（愛知）のJERAパワー武豊合同会社（同）が、事故の調査内容等を各々報告。米子バイオマス発電所では、かご状の「バケット」を移動させて燃料の木質ペレットを貯留槽に運ぶ設備「エレベーター」で爆発があり、鉄骨建屋（135㎡）の壁や屋根の一部が吹き飛んだ。ステンレス鋼製のバケットがエレベーターの底からペレットをすくい上げる際、紛れ込んだ金属や岩石とみられる異物との間で摩擦熱が生じ、火災と爆発に至った可能性が高く、清掃不足からエレベーターの底にたまっていた粉塵が爆発で飛散し、大規模な爆発につながったとの見立てから、事故は「複合要因で粉じん爆発が生じた」とする最終調査結果を報告。同社は再発防止に向け、すべてのバケットを摩擦熱が生じにくい樹脂製に統一し、集じん設備の増設や清掃の徹底等、粉じんの飛散防止や着火リスクの低減策を示した。武豊火力発電所では、木質バイオマス燃料を一時的に保管する装置の上部にある設備同士の摩擦が生じて火がつき、燃料の粉に引火して粉じん爆発が起きた可能性があるとしている。一時的に保管していた木質バイオマス燃料に異物が混入した可能性もあるとのことで、調査を続行、4月下旬を目処に原因を特定するとしている。経産省は今回のWGで設備の技術基準、運用ルールを見直す方針を示した。次回WGでは、バイオマス発電設備における破損事故の報告対象となる主要電気工作物や、燃料の貯蔵、運搬、受入設備等に関する技術基準等のあり方、設備及び燃料に関する

知見の業界横断的な取組等について審議する予定【電気新聞：2024/03/22、経産省：2024/03/21、読売新聞：2024/03/28、東海テレビ：2024/03/22】

<https://www.denkishimbun.com/archives/360108>

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/hoan_shohi/denryoku_anzen/denki_setsubi/020.html

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20240328-OY01T50021/>

https://www.tokai-tv.com/tokainews/article_20240322_33429

■埼玉県飯能市上名栗のオートキャンプ場「ケニーズ・ファミリー・ビレッジ」内に、地産の優良木材「西川材」を有効活用したバレル（たる型）サウナが完成。2022年度に地元産材である西川材の有効利用と地域振興を図るため、地元木材加工会社と名栗地区の住民がチームを組み、西川材を使ったバレルサウナの製作を開始。この住民参加型ワークショップは、信金中央金庫創立70周年記念事業として創設された「SCB ふるさと応援団」の企業版ふるさと納税による寄附金を活用し、飯能信用金庫と飯能市が共同で取り組む地方創生事業として実施してきた。2023年度にはサウナにペレットストーブの設置や温度調節装置の取り付けなどを進め、このほど完成。3月21日には製作に携わった地元住民らによる完成披露会とサウナの体験会を開催した。バレルサウナはフィンランド発祥で、今回設置されたものはたるの直径と高さ約2m、奥行き2.4m。一度に4人が利用できる。バレルサウナは半年後をめどに同ビレッジ内に完成予定のロッジで、宿泊者向けに使用される予定【東京新聞：2024/03/25、飯能市：2024/03/15】

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/317124>

<https://www.city.hanno.lg.jp/material/files/group/2/20240315-nishikawazaiwotukatabarerusanakanseihiroukai.pdf>

■世界最大の木質ペレット製造会社のエンビバ（USA）が、3月13日に資金繰りの悪化から連邦破産法第11条を申請、民事再生手続きへ。連邦破産法第11条は、多額の負債を抱えて経営危機に陥った企業が裁判所の監督下で債務を整理し、現経営陣で事業を続けながら再建を目指す仕組み。報道等によると、同社の26億ドル（約4,000億円）の債務の主な相手先は地元のデラウェア銀行（7億8,000万ドル）のほか、ドイツの大手電力会社RWE（3億4,800万ドル）、ミシシッピ、アラバマ両州の地域開発機関（3億5,300万ドル）等。エンビバは昨年第三四

半期の段階で資金繰り悪化のため格付けを引き下げられ、経営者交代等の対策が講じられていた。同社は今回の破産法申請に先立ち、負債を約 10 億ドル削減し流動性を強化することを目的として、同社の有担保上位融資枠の約 72%、2026 年優先社債の約 95%、現在建設中の工場関連の社債の約 78%等を保有する特別保有者グループとの間での債務調整の再建支援契約（RSA）と、それ以外の事業社債の 92%以上に相当する特定保有者との RSA の 2 つを締結。自社の再建計画も発表しており、2024 年第 4 四半期中の完了を目指すとしている。事業再建には既存債務の整理とともに、収益性の改善と流動性の確保という点で既存契約の見直し（価格引き上げ）が重要になってくる。エンビバは米国中南部の諸州に生産量約 500 万 t/年の 10 工場を所有し、生産した木質ペレットは米国内よりも英国、EU、日本の海外バイオマス発電所や石炭火力発電の混焼用等として輸出されている。住友商事（株）（東京）、三菱商事（株）（東京）、丸紅（株）（東京）等日本の大手商社はエンビバの木質ペレットを輸入し、日本各地のバイオマス発電所の燃料として供給している。ペレットの海洋輸送には（株）商船三井（東京）も関与。発電事業を自ら担う電源開発（株）（東京）は直接エンビバと覚書を結び、石炭火力発電へのバイオマス混焼用に最大年間 500 万 t の輸入量確保を目指している。取引の大きい住友商事は 3 月 13 日、エンビバ社の手続きの進捗について注視するとともに、エンビバ社からの調達分の対応については日本の需要家側と協議していくとして声明を公表している【（一社）環境金融研究機構：2024/03/27、WILMINGTON BIZ：2024/03/13、OSR 号外：2024/03/14、住友商事（株）：2024/03/13】

<https://rief-jp.org/ct4/144061>

<https://www.wilmingtonbiz.com/maritime/2024/03/13/maritime/25385>

<https://www.sumitomocorp.com/ja/jp/news/release/2024/gro-up/17470>

■宮城県石巻市にある「石巻ひばり野バイオマス発電所」、3 月 28 日付で営業運転開始。同発電所は（株）レノバ（東京）が 38%、東京ガス（株）（東京）100%出資子会社のプロミネットパワー（株）（東京）が 34%、ユナイテッド計画（株）（秋田）が 15%、みずほリース（株）（東京）が 13%出資し設立した合同会社石巻ひばり野バイオマスエナジー（宮城、以下「石巻 GK」）が準備を進めてきたもの。2020 年 10 月に着工、2022 年 10 月に試運転を開始し、当初は 2023 年 5 月に営業運転を始める計画だ

ったが、設備点検などに時間を要してずれ込んだ。燃料には北米や東南アジアから輸入した木質ペレットと PKS を活用。計約 32 万 t/年を石巻港雲雀野埠頭から発電所へ運搬する。発電出力 75.0MW、想定年間送電量約 53,000 万 kWh（一般家庭約 17 万世帯の年間使用電力量に相当）と、木質燃料専門のバイオマス発電所としては国内最大級。24 時間稼働し、東北電力ネットワーク（株）（宮城）に売電する。将来的には県産の未利用材木質チップの活用も見込む。翌 3 月 29 日、レノバは共同出資者との「持ち分譲渡に関する覚書」に基づいて、石巻 GK の発電所完成および引き渡し以降に一部の共同出資者が保有する出資持分を譲り受ける権利を行使し、みずほリースからの株式取得を決定したと発表。取得価額は 12 億 3,400 万円。レノバの出資比率が 51%となり、石巻 GK は同社の連結子会社に【（株）レノバ：2024/03/28、河北新報：2024/03/30、（株）レノバ、M&A Online：2024/03/29】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20240328_01_PRESS.pdf

<https://kahoku.news/articles/20240330khn000024.html>

https://www.renovainc.com/news/ir/pdf/20240329_01_PRESS.pdf

<https://maonline.jp/news/20240329f>

■石油資源開発（株）（東京、以下「JAPEX」）、愛媛県大洲市にある大洲バイオマス発電所に燃料用木質ペレットの供給を開始。同発電所は前田建設工業（株）（東京）が約 54%、JAPEX が約 35%、四電ビジネス（株）（香川）が約 8%、新光電装（株）（香川）が約 3%出資し設立した大洲バイオマス発電（株）（以下「OBP」）が運営するバイオマス専焼発電所。愛媛県大洲市長浜地区の工業団地内約 2.57 万 m²の敷地にあり、発電設備は三菱重工業（株）（東京）と三菱電機（株）（東京）、三菱パワー環境ソリューション（株）（神奈川）による共同企業体（JV）が手掛け、施工は前田建設が担当。適切な認証を得た海外産木質ペレットを 20 万 t/年使用し、出力は約 5 万 kW、発電量は約 3.5 億 kWh/年の見込み。発電する電気の全量を FIT 制度の利用により四国電力送配電（株）（香川）へ売電する計画。発電所の試運転を 4 月より実施するのに伴い、木質ペレット第一船（約 25,000t 積載）を 3 月 25 日に愛媛県大洲市長浜港拓海新棧橋に入港させた。今回の OBP 向け木質ペレット船は、JAPEX として初のバイオマス燃料供給。発電所の商業運転開始は今夏の予定【石油資源開発（株）：2024/03/29、メガソーラービジネス：

2022/06/11】

https://www.japex.co.jp/news/detail/20240329_01/

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/02606/?ST=msb>

■(株)北洋銀行(北海道)、3月末で木質ペレットガス化発電事業を休止した北海道バイオマスエネルギー(株)(北海道)に対する債権36億9,600万円について、取立不能又は取立遅延の恐れが生じたと発表。北海道バイオマスエネルギーは、三井物産(株)(東京)と北海道電力(株)(北海道)が出資して設立。原料は下川町内など道北の未利用間伐材や道内にある三井物産の社有林から調達し、自社で木質ペレットに加工。第一号プラントの下川発電所(出力1,815kW、2019年稼働)、第二号プラント当別発電所(出力990kW、2021年稼働)で燃料として利用し、発電していた。稼働後は、道内で相次いで立地したバイオマス発電施設との競合が激化。ウッドショックの影響による国内材の価格高騰が追い打ちをかけ、事業継続が困難になった【北海道新聞、(株)北洋銀行：2024/04/01、毎日新聞：2024/04/09】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/995206/>

https://www.hokuyobank.co.jp/announcement/pdf/20240401_074860.pdf

<https://mainichi.jp/articles/20240408/k00/00m/020/298000c>

■北陸電力(株)(富山)が運営する敦賀火力発電所(福井)で、4月7日21時37分頃「木質燃料を運ぶベルトコンベヤ付近から煙が出ている」と119番通報。敦賀署によると、石炭および木質バイオマス受入用ベルトコンベヤの端部にある、燃料を一時保管する建屋内で発煙を確認。消防署の消火活動により、22時57分には鎮火した。けが人はなし。同発電所では昨年12月にもベルトコンベヤ付近から出火している。その後の調査で今回の原因は、飛散していた木質バイオマスの微粉(木粉)がベルトコンベヤのブレーキ装置のカバー開口部から入り込み、ブレーキパッドに付着。ブレーキが作動した際の摩擦熱で木粉が加熱され、火の粉が発生し、ベルトコンベヤ周辺に堆積していた木粉上に落下してくすぶったものと推定。対策として、「ブレーキ装置カバー内への木粉侵入を防止する設備改造」「発熱のおそれのある機器の清掃強化」「運転員への火災リスクに関する定期的な教育」を実施する、としている。発電所は運転継続

中であり、発電に影響はないとのこと【goo ニュース、北陸電力(株)：2024/04/08、北陸電力(株)：2024/04/26】

https://news.goo.ne.jp/article/kyodo_nor/nation/kyodo_nor-2024040701001038.html

<https://www.rikuden.co.jp/press/attach/24040801.pdf>

<https://www.rikuden.co.jp/press/attach/24042602.pdf?1714103453>

■持続可能性と高度なセキュリティ機能を持つデータセンターを構築しているEcoDataCenter(エコデータセンター)社(スウェーデン)が、環境負荷をゼロにするどころかマイナス化し、気候変動にポジティブな作用をもたらす「クライメートポジティブ」なデータセンターを実現。EcoDataCenter社はスウェーデンのストックホルム、ファールン、ピーテオという3つの地域に4つのデータセンターを建設。そのなかでもファールンにある「EcoDataCenter1」は、近くの風力発電所や水力発電所から電力供給を受けており、施設内で消費される電力の100%が再生可能エネルギー(水力発電:75%、風力発電:25%)となっている。さらにEcoDataCenter1を複合バイオエネルギープラント「Falu Energy & Water」と接続。近くの林業事業者から出る木材チップとバイオマス残渣によって木質ペレットの生産や発電を行い、地域の暖房や冷房も担っているFalu Energy & Waterで、EcoDataCenter1のサーバーなどから発生した熱を木質ペレットの原料を乾燥させる際に利用し、製造工程での化石燃料の使用量を削減。さらにFalu Energy & Waterのバイオマス発電で作られた電力を、EcoDataCenter1でも利用している。こうしたエネルギー循環に加え、EcoDataCenter1では電力の効率化を担う三相UPSや、冬季に外気を利用したフリークーリングを活用。これらを一元的に管理・運用できるソフトウェアやサービスを積極的に導入することで、再エネ活用や排熱利活用による温室効果ガスの排出削減量が排出量を上回るクライメートポジティブなデータセンターを実現している【マイナビニュース：2024/04/10、EcoDataCenter】

https://news.mynavi.jp/techplus/article/power_crisis-2/

<https://ecodatacenter.tech/sustainability-data-center>

■中外テクノス(株)(広島)、バイオマス発電所の安全対策に関する各種試験の提供を開始。バイオマス燃料は蓄熱しやすいという課題があり、その解決策として、貯蔵時の自然発火予測を目的に各種試験により木質ペレット、木質チップ、

PKS 等のバイオマス燃料の発熱特性を把握し、評価する「発熱特性試験」や、サイロ内に貯蔵された燃料の発熱挙動を様々な条件の下で解析する「発熱シミュレーション」、さらに「粉塵爆発特性の評価・現地測定」も行うとしている【PR TIMES：2024/04/15】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000088440.html>

■(有)内藤鋼業(愛媛)、5月からペレット製造工場本稼働へ。同社はペレットを地元の木質バイオマス発電所に供給しているが、昨年、工場の火災でペレット製造を中止していた【日刊木材新聞：2024/04/16】

https://jfpj.jp/mokuzai_news/31629

■日本、ISO（国際標準化機構）/TC（技術委員会）238 で、傍聴人から正規メンバーに地位変更。ペレットを含む固体バイオ

燃料の国際的な規格を決めている ISO/TC238（議長国・スウェーデン）において、3月13日、これまでのオブザーバーの地位（Oメンバー）から提案と投票ができる正規メンバー（Pメンバー）の地位に変更したことが、4月5日に東京都内で開催された（一社）固体バイオ燃料標準化協議会（JBSA）総会で明らかに。JBSAはISO/TC238の日本における国内審議団体。5月13日（月）～17日（金）にはISO/TC238の年次総会がオーストリアのウィーンで開催されることになっており、日本からも国内審議委員が数名出席する予定【OSR No.605：2024/04/17、（一社）固体バイオ燃料標準化協議会、ペレットクラブブログ：2023/09/30】

<https://jbfsa.org/iso-tc238/>

<http://pelletclub.livedoor.blog/archives/21893120.html>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■東北農林専門職大学「東北農林専門職大学グローバル・リノベート・セミナー・シリーズ：行動変容をそっと後押しするナッジ（nudge）の森林セクターへの適用可能性「イギリスにおける森林政策と動機付け、制度、およびナッジ」（Incentives, institutions & nudges in Forest Policy：a UK perspective）」

2024年5月8日（水）

東北農林専門職大学大講義室（山形県新庄市）/ウェビナー

<https://tpuaf.ac.jp/university/news/news-2642/>

◎BIOMASS INNOVATIONS ASIA 2024

2024年5月13日（月）～15日（水）

東京マリOTTホテル（東京都品川区）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240501&>

◎BIO FUELS & CARBON

2024年5月13日（月）～14日（火）

東京マリOTTホテル（東京都品川区）

◎14th Biomass Pellets Trade & Power

2024年5月14日（火）～15日（水）

東京マリOTTホテル（東京都品川区）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=240501&>

■岩手・木質バイオマス研究会「第24回定例セミナー」

2024年5月18日（土）

道の駅とうわ（岩手県花巻市）集合

<https://wbiate.jimdofree.com/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88%E6%83%85%E5%A0%B1/>

■（独立行政法人）国際協力機構公開シンポジウム「地球の肺を守ろう～世界三大熱帯林の現状及び課題、その保全策について理解を深める～」

2024年5月20日（月）

JICA 地球ひろば 2F 国際会議場（東京都新宿区）/Zoom ウェビナー

<https://www.jica.go.jp/domestic/hiroba/information/event/20240425.html>

■NPO 法人農都会議「2024 提言 SG 第 4 回『地域・企業の現場から政策提言』発表会～身近な課題の解決策を気軽に提案しよう！～」

2024 年 5 月 20 日（月）

オンライン開催（Zoom 利用）

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/427>

◎（株）JPI（日本計画研究所）セミナー「JFE エンジニアリング（株）：再生可能エネルギー源としての木質系バイオマス利用の道標 その選択肢と頻発するバイオマス火災への備え」

2024 年 5 月 21 日（火）

JPI カンファレンススクエア（東京都港区）/ライブ配信

https://www.jpi.co.jp/seminar/16888?utm_source=prtimes

◎2024 地球温暖化防止展

2024 年 5 月 22 日（水）～24 日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

団体展示 Bioenergy2024（新興工機、東亜技研工業、東京農工大学大学院農学研究科森林利用システム学研究室、西村精工、日本ペレットストーブ工業会、日本木質ペレット協会、ペレットクラブ、豊実精工、ラブ・フォレスト）

<https://www.n-expo.jp/documents/for-exhibitors/gwpe-exhibitor.pdf>

◎NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク『『マザーツリー』気候と生態系を守るカナダの森の叢智：それを燃やすバイオマス発電は「再エネ」か？』

2024 年 5 月 27 日（月）

聖心女子大学 プリット記念ホール（同大学 4 号館・聖心グローバルプラザ 3 階）（東京都渋谷区）/Zoom ウェビナー

<https://www.npobin.net/>

■（公財）地球環境戦略研究機関「日本・EU 都市気候行動ワークショップ：日欧間の知見共有 - レジリエントな未来をつかむ」

2024 年 5 月 29 日（水）：パシフィコ横浜 会議センター / オンライン

2024 年 5 月 30 日（木）：オンライン

<https://www.iges.or.jp/jp/events/20240529-30>

■（一社）日本エネルギー学会「2024 年度 RGB シンポジウム GX 実現に向けたエネルギー・環境分野の革新的技術」

2024 年 6 月 6 日（木）

東京大学弥生キャンパスフードサイエンス棟中島董一郎記念ホール（東京都文京区）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/905/>

■木質バイオマス利用研究会「2024 年度第 1 回木質バイオマス利用研究会」

2024 年 6 月 7 日（金）

東京大学農学部フードサイエンス棟中島ホール及び Zoom meeting のハイブリッド

<https://jfes.jp/posts/news24.html>

■（株）新社会システム総合研究所セミナー「脱炭素経営に必須となる地域主体の再生可能エネルギーの普及と調達～実例から学ぶ効果的な再エネ調達法～」

2024 年 6 月 10 日（月）

ライブ（ZOOM）配信/アーカイブ配信

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=24304>

■（株）新社会システム総合研究所セミナー「ドイツ再エネ比率 50%超の光と影～エネルギー転換の前に立ちはだかる難関とは～」

2024 年 6 月 12 日（水）

SSK セミナールーム（東京都港区）/ライブ（ZOOM）配信/アーカイブ配信

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=24174>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク第 223 回研究会「2023-2024 年のバイオマス利用の最新動向」

2024 年 6 月 22 日（土）

地球環境パートナーシッププラザ（東京）/ZOOM オンライン

<https://www.npobin.net/>

■（一社）日本エネルギー学会「第 33 回日本エネルギー学会大会」

2024 年 8 月 7 日（水）～9 日（金）※9 日はテクニカルツアー
早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/964/>

■産経新聞社「FORESTRISE 2024（第4回次世代森林産業展）」
2024年9月18日（水）～9月20日（金）
東京ビッグサイト 東ホール（東京都江東区）
<https://www.forestrise.jp/2024/index.html>

◎RX Japan(株)「第22回 SMART ENERGY WEEK【秋】」
2024年10月2日(水)～4日(金)
幕張メッセ（千葉県千葉市）
<https://www.wsew.jp/autumn/ja-jp.html>

■（一社）林業機械化協会「2024 第47回全国育樹祭開催記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会」
2024年10月20日（日）～21日（月）
福井県スキージャム勝山（福井県勝山市）
<https://www.rinkikyo.or.jp/news/view/150>

◎RX Japan（株）「第12回 SMART ENERGY WEEK【関西】」
2024年11月20日(水)～22日(金)
インテックス大阪（大阪）
<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

4. イベント情報（海外）

■BOILER 2024 | ABMA Boiler Technology Conference & Expo
2024年5月1日（水）～3日（金）
コロラド州デンバー（USA）
<https://abmaboilerexpo.com/>

■Waste Expo
2024年5月6日（月）～9日（木）
ネバダ州ラスベガス（USA）
<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

■BIOGAS AMERICAS 2024
2024年5月13日（月）～16日（木）
ジョージア州サバンナ（USA）
<https://biogasamericas.com/>

■ALL ENERGY EXHIBITION AND CONFERENCE 2024
2024年5月15日（水）～16日（木）
グラスゴー（UK）
<https://www.all-energy.co.uk/>

■CO2 Capture, Storage & Reuse Conference
2024年5月15日（水）～16日（木）
コペンハーゲン（デンマーク）
<https://fortesmedia.com/co2-capture-storage-reuse-2024,4,en,2,1,37.html>

■Regatec 2024
2024年5月15日（水）～16日（木）
ルンド（スウェーデン）
<https://regatec.org/>

■7th Biomethane Congress
2024年5月21日（火）～22日（水）
ポズナン（ポーランド）
<https://magazynbiomasa.pl/en/narodowy-kongres-biometanu/>

■Argus Europe Carbon Conference
2024年5月21日（火）～23日（木）
ニース（フランス）
https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/europe-carbon-conference?utm_source=partner&utm_medium=referral&utm_campaign=euaf-evc-2024-05-emi-europe-carbon-2024&utm_content=euaf-evc-2024-05-emi-europe-carbon-2024-bioenergy-europe

■8th Iran International Renewable Energy Conference & Exhibition
2024年5月27日～28日
テヘラン（イラン）
<http://irrea.ir/en/home/>

◎European Pellets Forum 2024
2024年5月28日（火）～29日（水）
ナンテ（フランス）

<https://pellet-forum.eu/>

©Propellet

2024 年 5 月 29 日 (水)

ナンテ (フランス)

<https://pellet-forum.eu/>

■Euroheat & Power 2024

2024 年 6 月 3 日 (火) ~5 日 (木)

ロッテルダム (オランダ)

<https://ehpcongress.org/>

■4th Annual Biofuels Forum

2024 年 6 月 5 日 (木) ~6 日 (金)

ベルリン (ドイツ)

<https://inventu.eu/4th-biofuels-forum/>

■3rd Annual Biogas Forum

2024 年 6 月 5 日 (木) ~6 日 (金)

ベルリン (ドイツ)

<https://inventu.eu/3rd-annual-biogas-forum/>

■Carbon Capture & Storage Summit

2024 年 6 月 10 日 (月) ~12 日 (水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

http://fuel ethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Carbon_Capture_Storage_Summit

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024 年 6 月 10 日 (月) ~12 日 (水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagel=Home>

■Biodiesel Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2024 年 6 月 10 日 (月) ~12 日 (水)

ミネソタ州ミネアポリス (USA)

<https://few.bbiconferences.com/Biodiesel.html>

■Oleofuels 2024

2024 年 6 月 12 日 (水) ~13 日 (木)

ミラノ (イタリア)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/oleofuels/>

■WBA Spring webinar series: Role of Bioenergy in Atmospheric CO2 Removal

2024 年 6 月 18 日 (火)

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/770/47/World-Bioenergy-Association-announces-Spring-webinar-series/>

■Biofuels International Conference & Expo

2024 年 6 月 18 日 (火) ~19 日 (水)

ブリュッセル (ベルギー)

<https://biofuels-news.com/conference/choose-payment-method/>

■International Biogas Congress & Expo

2024 年 6 月 18 日 (火) ~19 日 (水)

ブリュッセル (ベルギー)

<https://bioenergy-news.com/conference/about-biogas/>

■KWF-Tagung

2024 年 6 月 19 日 (水) ~22 日 (土)

ヘッセン州シュヴァルツェンボルン (ドイツ)

<https://kwf-tagung.net/english/>

■26th IUFRO WORLD CONGRESS

2024 年 6 月 23 日 (日) ~29 日 (土)

ストックホルム (スウェーデン)

<https://iufro2024.com/>

■EUBCE 2024 - 32nd European Biomass Conference and Exhibition

2024 年 6 月 24 日 (月) ~27 日 (木)

マルセイユ (フランス) /オンライン

<https://www.eubce.com/>

■2024 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2024 年 7 月 10 日（水）～12 日（金）

ミネソタ州ミネアポリス（USA）

<https://2024->

few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■2024 Biodiesel & Renewable Diesel Summit

2024 年 7 月 10 日（水）～12 日（金）

ミネソタ州ミネアポリス（USA）

<https://2024->

[few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Biodiesel
Summit Sustainable Aviation Fuel Renewable Diesel](https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=BiodieselSummit_Sustainable_Aviation_Fuel_Renewable_Diesel)

■2024 Carbon Capture & Storage Summit

2024 年 7 月 10 日（水）～12 日（金）

ミネソタ州ミネアポリス（USA）

<https://2024->

[few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon
Capture Storage Summit](https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=CarbonCapture_Storage_Summit)

■FinnMETKO 2024

2024 年 8 月 29 日（木）～31 日（土）

ヤムサ（フィンランド）

<https://www.finnmetko.fi/>

■Progress in Biogas VI

2024 年 9 月 2 日（月）～4 日（水）

シュトゥットガルト（ドイツ）

<https://ibbk-biogas.com/schedule/progress-in-biogas/>

■North American SAF Conference & Expo

2024 年 9 月 11 日（水）～13 日（金）

ミネソタ州セント・ポール（USA）

[https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=
Home](https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

■International Training Seminar: Sustainable Bioenergy Heating -
Market development and technologies

2024 年 9 月 23 日（火）～26 日（金）

リンツ（オーストリア）

[https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-
heating-2024](https://www.cleantechcluster-energie.at/en/bioenergy-heating-2024)

■6th BIOGAS POWER ON

2024 年 9 月 25 日（木）～26 日（金）

コペンハーゲン（デンマーク）

[https://fortesmedia.com/biogas-poweron-
2024,4,en,2,1,100.html](https://fortesmedia.com/biogas-poweron-2024,4,en,2,1,100.html)

■Renewable Gas Trade Fair 2024

2024 年 10 月 1 日（火）～2 日（水）

バリャドリード（スペイン）

<https://salondelgasrenovable.com/en>

■Bio-Energy Pavilion 2024

2024 年 10 月 3 日（木）～5 日（土）

グレートノイダ（インド）

<https://biogas-india.com/bio-energy-pavilion-2024/>

■Biomass Power ON 2024

2024 年 10 月 9 日（水）～10 日（木）

コペンハーゲン（デンマーク）

[https://fortesmedia.com/biomass-poweron-
2024,4,en,2,1,101.html](https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2024,4,en,2,1,101.html)

■European Biomethane Week

2024 年 10 月 21 日（火）～25 日（土）

ブリュッセル（ベルギー）

<https://www.europeanbiomethaneweek.eu/>

■BBEST- IEA Bioenergy Conference

2024 年 10 月 22 日（水）～24 日（金）

サンパウロ（ブラジル）

<https://bbest-ieabioenergy.org/>

◎USIPA 2024 Conference

2024 年 11 月 4 日（月）～6 日（水）

フロリダ州マイアミ（USA）

<https://theusipa.org/2024-conference>

■2024 National Carbon Capture Conference & Expo

2024 年 11 月 19 日（火）～20 日（水）

ミネソタ州セント・ポール（USA）

<https://2024->

nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■European Bioenergy Future

2024 年 11 月 20 日（水）～21 日（木）

ブリュッセル（ベルギー）

[https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf-](https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf-european-bioenergy-future-2024.html)

[european-bioenergy-future-2024.html](https://bioenergyeurope.org/events/11-events/415-ebf-european-bioenergy-future-2024.html)

◎Nordic Pellets Conference 2025

2025 年 2 月 5 日（水）～6 日（木）

ストックホルム（スウェーデン）

[https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-](https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2025/)

[conference-2025/](https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2025/)

◎World Sustainable Energy Days 2025

2025 年 3 月 5 日（水）～7 日（金）

ヴェルス（オーストリア）

<https://www.wsed.at/>

◎International Biomass Conference & Expo

2025 年 3 月 18 日～20 日

ジョージア州アトランタ（USA）

<https://2025->

ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■EXPO BIOMASA

2025 年 5 月 6 日（火）～8 日（木）

バリャドリード（スペイン）

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■Elmia Wood

2025 年 6 月 4 日（水）～7 日（土）

ヨンショーピング（スウェーデン）

<https://www.elmia.se/en/wood/>

5. 2024 年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報（都道府県順）

※締切や公募の条件等の詳細は各自自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【北海道】

◇旭川市「令和 6 年度旭川市木質バイオマスストーブ導入促進事業補助金」

https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/271/290/291/d069431_d/fil/r6_panhu.pdf

◇足寄町「足寄町木質ペレット燃焼機器導入補助金」

https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kurashi/about-town/hojyokin/page_4.html

◇厚真町「厚真町地球温暖化防止対策推進補助金」

https://www.town.atsuma.lg.jp/office/reception/moving_living/h

[ouse/support/stove/](https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/19/1514.html)

◇網走市「網走市住環境改善資金補助制度」

<https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/19/1514.html>

◇遠軽町「ペレットストーブ購入費補助金」

<https://engaru.jp/information/page.php?id=83>

◇帯広市「令和 6 年度新エネルギー導入促進補助金」

<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/kurashi/kankyo/energy/kashitsuke/1003733.html>

◇北広島市「北広島市住宅用再生可能エネルギー及び省エネルギー機器設置補助金」

<https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/hotnews/detail/00145684.html>

◇札幌市「2024 年度再エネ省エネ機器導入補助金制度」

<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/energy/hojo/kiki.html>

※申込募集は、2024 年 5 月 8 日（水）から開始

◆鷹栖町「鷹栖町ゼロカーボンハウス化補助金」

<https://www.town.takasu.hokkaido.jp/gyosei/environment/detail.html?content=1108>

◇津別町「木質ペレットストーブ導入支援事業」

<https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/soshikikarasagasu/sangyoshinko/8/2/789.html>

◇当別町「令和 6 年度の再生可能エネルギー設備導入推進事業補助金」

<https://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/soshiki/energy/45100.html>

※開始時期は 6 月以降を予定

◇中富良野町「中富良野町木質ペレットストーブ等設置補助金」

<https://www.town.nakafurano.lg.jp/hotnews/detail/00003002.html>

◇美瑛町「令和 6 年度再生可能エネルギー設備等導入事業補助金」

<https://town.biei.hokkaido.jp/administration/administration/zerocarbonaction/zerocarbonsubsidyproject.html>

◇美幌町「木質ペレットストーブ購入補助金」

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/docs/2022020800031/>

◇富良野町「再生可能エネルギー導入促進事業補助金」

<https://www.city.furano.hokkaido.jp/life/docs/2015022400163.html>

【岩手】

◇一関市「薪ストーブ設置費補助金」

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/29,155994,243,787.html>

※対象は薪ストーブ

【秋田】

◇秋田市「秋田市住宅用木質バイオマスストーブ導入補助金」

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/recycle/1006073/1006110.html>

◇北秋田市「北秋田市住宅用木質ペレットストーブ等導入補助金」

<https://www.city.kitaakita.akita.jp/news/p17075>

◇湯沢市「令和 6 年度湯沢市木質バイオマス導入促進事業補助金」

<https://www.city-yuzawa.jp/soshiki/44/5533.html>

【山形】

◇山形県「やまがた未来くるエネルギー補助金（山形県再生可能エネルギー等設備導入促進事業）」

https://www.pref.yamagata.jp/050016/kurashi/kankyo/energy/saiseikanou/saiseikanou_hojo_h31.html

◇大江町「令和 6 年度おおえを潤す木質エネルギー利用促進事業補助金」

<https://www.town.oe.yamagata.jp/files/original/202404031116074800e48d55f.pdf>

◆大蔵村「令和 6 年度木質バイオマス利用拡大支援事業補助金」

https://www.vill.ohkura.yamagata.jp/soshikikarasagasu/sangyos_hinkoka/gyomuannai/8/560.html

◇河北町「河北町再生可能エネルギー設備及び省エネルギー設備導入事業」

<https://www.town.kahoku.yamagata.jp/soshiki/machizukurisuishinaka/seikatukankyo/938.html>

◇庄内町「令和 6 年度庄内町木質ペレットストーブ等導入支援事業」

https://www.town.shonai.lg.jp/kurashi/kurashi/zyuutaku/R6_pellet.html

◇白鷹町「令和6年度白鷹町再生可能エネルギー推進事業費補助金」

<https://www.town.shirataka.lg.jp/1203.htm>

◇東根市「東根市ペレットストーブ等設置支援事業費補助金」

https://www.city.higashine.yamagata.jp/section_list/section008/1824

◇舟形町「舟形町再生可能エネルギー設備等導入設置費補助金」

<https://www.town.funagata.yamagata.jp/s007/sugata/060/020/210/20200117011000.html>

◇真室川町「ペレットストーブ等利用拡大支援事業」

https://www.town.mamurogawa.yamagata.jp/kurashi_tetsuzuki/hikkoshi/2/1979.html

◆村山市「令和6年度村山市木質バイオマス燃焼機器設置事業補助金」

<https://www.city.murayama.lg.jp/kurashi/josei/josei/biomass.html>

◇山形市「令和6年度環境貢献市産材支援家づくり事業」

<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/jigyosya/nougyo/1006768/1006771/1004728.html>

【福島】

◇いわき市「令和6年度いわき市ゼロカーボンライフスタイル促進補助制度（旧環境負荷軽減機器導入促進補助制度）」

<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1680488419046/index.html>

◇喜多方市「令和6年度喜多方市自家消費型再生可能エネルギー設備等設置費補助金」

<https://www.city.kitakata.fukushima.jp/soshiki/kankyo/14385.html>

◇桑折町「令和6年度桑折町再生可能エネルギーシステム設備等設置補助制度」

<https://www.town.koori.fukushima.jp/soshiki/kankyo/1/3/2713.html>

◆柳津町「令和6年度住宅用新エネルギー設備等設置費補助金」

https://www.town.yanaizu.fukushima.jp/docs/2015021600069/file_contents/hojyo.pdf

【栃木】

◇さくら市「さくら市脱炭素化普及促進事業補助金」

<https://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/life/000014/000121/000402/p001978.html>

◇那珂川町「令和6年度那珂川町低炭素まちづくり推進設備等導入事業費補助金」

<https://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp/life/kurashi/2023-0405-1911-23.html>

◇益子町「益子町住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金制度」

<https://www.town.mashiko.lg.jp/page/page001518.html>

◇矢板市「令和6年度矢板市家庭のゼロカーボン推進補助金」

<https://www.city.yaita.tochigi.jp/soshiki/seikatsukankyou/zero-carbon-hojo.html>

【群馬】

◇渋川市「令和6年度渋川市住宅用温暖化対策設備等導入補助金」

<https://www.city.shibukawa.lg.jp/kurashi/gomi/ondanka/p006515.html>

◇沼田市「令和6年度沼田市住宅用再生可能エネルギーシステム設置補助金」

<https://www.city.numata.gunma.jp/life/kankyo/taiyoko/1003684.html>

◇前橋市「令和6年度木質燃料ストーブ購入費補助金」

https://www.city.maebashi.gunma.jp/kurashi_tetsuzuki/1/8/17671.html

◇みどり市「みどり市住宅用再生可能エネルギーシステム等設置補助金」

<https://www.city.midori.gunma.jp/kankyo/1001718/1005391.h>

[tml](#)

【埼玉】

◇所沢市「令和 6 年度創エネ・蓄エネ機器導入「所沢市スマートハウス化推進補助金」【家庭用】」

<https://www.city.tokorozawa.saitama.jp/kurashi/seikatukankyo/kankyo/ekojoyosei/kikidounyu.html>

【千葉】

◇いすみ市「いすみ市木質バイオマス活用事業補助金について（令和 6 年度）」

https://www.city.isumi.lg.jp/soshikikarasagasu/norinka/choju_sayamataisakushitsu/1/1/1217.html

◇香取市「住宅用設備等脱炭素化促進事業補助金制度（令和 6 年度）」

<https://www.city.katori.lg.jp/living/kankyohozen/shoene/hojokinseido.html>

※対象は薪ストーブ

◆山武市「ペレットストーブ等補助金」

<https://www.city.sammu.lg.jp/page/page001016.html>

◆南房総市「令和 6 年度住宅等木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/cmsfiles/contents/0000007/7149/R6jutakutebiki.pdf>

【東京】

◇稲城市「令和 6 年度稲城市カーボンニュートラル住宅設備等補助金」

<https://www.city.inagi.tokyo.jp/smph/kankyo/tikyuondanka/juutakuyousouenergy/soene.html>

※令和 6 年 6 月頃、広報いなぎ、ホームページで通知。7 月申請受付開始予定。

◇八王子市「令和 6 年度(2024 年度) 再生可能エネルギー利用機器等設置費補助制度」

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/life/004/a546973/a871645/p007132.html>

【新潟】

◇魚沼市「再生可能エネルギー普及促進事業補助金」

<https://www.city.uonuma.lg.jp/page/1020370.html>

◇見附市「新エネルギー導入促進事業補助金」

<https://www.city.mitsuke.niigata.jp/soshiki/20/1858.html>

◆南魚沼市「令和 6 年度木質バイオマスストーブ設置補助金」

<https://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/docs/1247.html>

【富山】

◇上市町「上市町ペレットストーブ導入促進事業補助金」

<https://www.town.kamiichi.toyama.jp/page/1591.html>

◇富山市「令和 6 年度富山市省エネルギー機器等導入補助金」

<https://www.city.toyama.lg.jp/kurashi/gomi/1010252/1005156.html>

◇南砺市「木質ペレットストーブ等設置事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=12585>

◆南砺市「ペレットボイラー等設置事業補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=26355>

【山梨】

◇忍野村「木質ペレットストーブ設置費補助金」

<https://www.vill.oshino.lg.jp/page/1513.html>

◆甲州市「住宅環境創エネ・省エネ・蓄エネ設備の設置費補助金」

<https://www.city.koshu.yamanashi.jp/docs/2022032900026/>

◇甲府市「クリーンエネルギー機器普及助成金制度」

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/kankyohozen/machi/kankyo/shisaku/20130328.html>

◇北杜市「北杜市再生可能エネルギー設備設置費補助金」

<https://www.city.hokuto.yamanashi.jp/docs/27496.html>

<https://www.vill.yamanakako.lg.jp/info/315>

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kenchiku/kenkozeroene/joseikin.html>

https://www.vill.asahi.nagano.jp/official/soshikikarasagasu/kensetsukankyoka/jogesuidotanto/1_1/3/495.html

[https://www.city.iida.lg.jp/site/eco k うしか model/datsutanso-senکو.html](https://www.city.iida.lg.jp/site/eco%20%E6%A8%B9%20%E7%BB%A4%20%E6%A8%A1%20model/datsutanso-senکو.html)

※交付申請は5月15日から開始

※対象は薪ストーブ

<https://www.city.komagane.nagano.jp/soshikiichiran/seikatsukan/kyoka/kankyohozengakari/1/2/1605.html>

https://www.city.saku.nagano.jp/kurashi/kankyo_kogai/ondankat_aisaku/hojo/pelletstoveetc/h27mokushitsubio.html

※7月上旬から申請受付開始予定

<https://www.city.shiojiri.lg.jp/soshiki/63/2997.html>

<https://www.city.chikuma.lg.jp/soshiki/norin/sangyoshinko/1/1681.html>

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/74/3177.html>

http://www.inacity.jp/sangyo_noringyo/noringyo/ringyo/mokushitsubaiomasu/pelletstove.html

<https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kankyos-eisakuka/3/1/2/2130.html>

<https://www.town.shitara.lg.jp/soshiki/5/1173.html>

<https://www.town.ide.kyoto.jp/soshiki/sangyoukankyou/shinsei-tetuduki/1394180580138.html>

※対象は薪ストーブ

<https://www.city.kameoka.kyoto.jp/soshiki/30/3644.html>

<https://www.city.nagaokakyo.lg.jp/0000010968.html>

※対象は薪ストーブ

<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/25/1909.html>

【兵庫】

◇猪名川町「ペレットストーブ等購入助成補助金」

https://www.town.inagawa.lg.jp/kurashi/hojo_enjo/1468124902628.html

◇丹波篠山市「令和6年度薪ストーブ等設置補助金」

https://www.city.tambasayama.lg.jp/soshikikarasagasu/nomiyakokankyoka/earth/r5_woodstove.html

◆豊岡市「2024年度豊岡市木質バイオマス利用機器導入促進事業補助金」

<https://www.city.toyooka.lg.jp/kurashi/gomikankyo/1019255/1019260/1019261/1029123.html>

【和歌山】

◇有田川町「薪ストーブ等設置補助金」

<https://www.town.aridagawa.lg.jp/top/kakuka/kanaya/rinmu/ku-rasi/hojokin/945.html>

【鳥取】

◇琴浦町「令和6年度琴浦町クリーンエネルギー導入推進事業補助金」

<https://www.town.kotoura.tottori.jp/docs/2019042200024/>

◇北栄町「令和6年度北栄町創エネルギー等設備設置費補助金」

<https://www.e-hokuei.net/1833.htm>

◇三朝町「三朝町住宅用太陽光発電システム等設置費補助金（令和6年度）」

<http://www.town.misasa.tottori.jp/315/319/324/764/1905/3726.html>

【島根】

◇出雲市「令和6年度出雲市再生可能エネルギー設備等導入補助金」

<https://www.city.izumo.shimane.jp/www/contents/1665750354587/files/tirashi.pdf>

◆大田市「令和6年度大田市木質燃料活用機器導入促進事業費補助金」

https://www.city.oda.lg.jp/ohda_city/city_organization/24b/38/38b/9631/8321

◇津和野町「津和野町再生可能エネルギー設備等導入支援事業補助金」

<https://www.town.tsuwano.lg.jp/www/contents/1648860056109/index.html>

◇松江市「松江市再生可能エネルギー機器等導入促進事業補助金」

https://www.city.matsue.lg.jp/soshikikarasagasu/kankyoenergybu_kankyoenergyka/gomi_kankyo_pet/1/8/991.html

【岡山】

◆真庭市「令和6年度ストーブ等補助」

<https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/41/26451.html>

【広島】

◇広島県「令和6年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

◇東広島市「薪ストーブ・木質ペレットストーブ設置補助金」

<https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/soshiki/sangyo/8/6/16946.html>

【愛媛】

◆内子町「令和6年度地球温暖化対策設備導入事業補助金」

<https://www.town.uchiko.ehime.jp/soshiki/10/132655.html>

【熊本】

◆高森町「令和6年度高森町ペレットストーブ等設置費補助金」

<https://www.town.takamori.kumamoto.jp/chosha/seisaku/2024/04/post-412.html>

6. 公募等情報（締切順）

■（一財）環境イノベーション情報機構「令和5年度（補正予算）二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業）」（二次公募）

公募期間 2024年4月11日（木）～5月9日（木）

https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/resi_r05c/003/

■（一社）環境技術普及促進協会「令和5年度（補正予算）、令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（民間企業等による再エネ主力化・レジリエンス強化促進事業）のうち、（2）新たな手法による再エネ導入・価格低減促進事業 ⑥熱分野・寒冷地での脱炭素化先行モデル創出事業」

公募期間（一次公募）2024年4月16日（火）～5月21日（火）

（二次公募）2024年6月18日（火）～7月16日（火）

<https://www.eta.or.jp/offering/2024/decarbon/index.php>

■（一社）環境技術普及促進協会「令和5年度（補正予算）二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（民間企業等による再エネ主力化・レジリエンス強化促進事業）のうち、（2）新たな手法による再エネ導入・価格低減促進事業 ⑤再エネ熱利用・発電等の価格低減促進事業」

公募期間（二次公募）：2024年5月21日（火）～6月18日（火）

<https://www.eta.or.jp/offering/2024/netso/index.php>

■（一財）環境イノベーション情報機構「令和5年度（補正予算）二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業（SHIFT 事業））省CO2型設備更新支援C（中小企業事業）」の公募について

募集期間（二次公募）：2024年3月25日（月）～5月31日（金）

https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/shift_r05c/001/

■NEDO「2024年度『新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業』（新エネ中小・スタートアップ支援制度）に係る公募について」

受付期間 2024年3月25日（月）～5月16日（木）

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100453.html

■京都府「京の森林文化を守り育てる支援事業（令和6年度事業）」

募集期間 2024年4月1日（月）～6月14日（金）

<https://www.pref.kyoto.jp/shinrinhozen/moribunka.html>

■NEDO「『再生可能エネルギー熱の面的利用システム構築に向けた技術開発』に係る公募について」

受付期間 2024年4月26日（金）～6月28日（金）

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100390.html

■環境省「脱炭素先行地域（第5回）募集について」

募集期間 2024年6月17日（月）～6月28日（金）

https://www.env.go.jp/press/press_02722.html

■（公財）都市緑化機構「第44回緑の都市賞」

募集期間 2024年4月1日（月）～6月30日（日）

<https://urbangreen.or.jp/grant/3hyosho/green-city>

■（公財）地球環境センター（GEC）「令和6年度二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業の公募について」

公募期間 2024年4月5日（金）～11月29日（金）

※一次採択審査分提案書の受付締切は、5月13日（月）

※交付内示額が予定額に達した段階で終了

<https://gec.jp/jcm/jp/kobo/mp240405/>

■（公社）日本ナショナル・トラスト協会「第20期ナショナル・トラスト活動助成」

2024年4月1日（月）～総助成額に達し次第終了

<http://www.ntrust.or.jp/subsidy/index.html>

■福島県福島市「燃油を使用しないハウス暖房設備等の導入費用を助成します」

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/nougyou-seisan/shigoto/noringyo/norinshinko/shisetuengei060401.html>

※2025年3月31日までに事業を完了すること

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共的施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyoushizen/kj00006264.html>

■千葉縣市原市「企業の設備投資に対する奨励制度」

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece4651c88c1880a>